次号には　**牛乳營業取締を望む**　佐々木信綱及美妙齋二氏の　**高尾山紀行**

立花家氏の脚本　●　神宮ミね子氏の　**縫取獨學び**　懸賞文藝　**採蓮女**　其他　**續稿**を載せます

いらつめ第六十三號目次（明治廿三年七月二十日）

●雜　纂…コレラ預防及手當心得

平常の心得＝飯食物＝手當のしかた

○波斯の風俗…………………梅子

○色インキ使用の注意……より子

○對面話しの流行…………むづかしや

○脫兎上手＝大踈野＝天地皆詩＝成就

＝愛れ無言＝無學

●通信紹介……大内香＝ダイアモンド入胸飾＝近世禮式書＝文學家の寫眞＝和文英語女敎師

●通信問答……ファシヨンの語義＝油を灑いで海水を靜かにする＝ハンケチに香水を附ける事＝香水の香となくなる源因＝香水のアルコール分有無を試驗する法＝サポリチ＝ハンケチよ附いたインキを落す＝毛は之藥＝顏ハ赤い源因及其養生＝接吻及ホーム＝蚤を去る法＝ラムチと胃弱＝豆腐の可否＝汗を止める＝醉沈香の意義＝鷄卵＝有名な眼科醫＝文金高髷を恰好よく結ふ法＝疊に附いたインキを落す＝黒繻子の油垢＝油の附いたブラシユを洗ふ＝鐵物に生長せぬ＝人造天然二氷の溶解温度＝着物に附いた脂を落す法

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵税共金三錢、十二部金二拾九錢郵税共金三拾五錢、二十四部金五拾七錢郵税共金六拾九錢、三十六部金八拾四錢郵税共金壹圓〇二錢、四十八部金壹圓郵税共金壹圓二拾四錢〇別製一部金三錢五厘郵税共金四錢、二十部金六拾五錢郵税共金七拾五錢、五十部金壹圓六拾五錢郵税共金壹圓九拾錢〇並別兩製共前金領收の上で無くては差上げぬ事〇府内に限り無郵税〇毎月二回（五日及二十日）發兌〇金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂渡郵便局と記し受取人欄内に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事〇郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割増しなれは妨げ無い事〇見本は五厘切手で並製五錢別製七錢領收の上差し上ます〇廣告料一行金八錢、割引無し

本號の所載ハ

コレラ預防法

色インキ使用の注意

ペルシヤ**風俗**●**香水雜事**ハンケチ疊等のインキを落す法　**紅顏**原因療法

蚤を去る法　**文金**高髷を見よく結ふ法　**油**の附いたブラシを洗ふ法　**着物**の脂を落す法

雜纂

虎列刺病豫防幷びに手當心得

もはや長崎にも忌はしい虎列刺病が發生したのは諸新聞紙で御存じの事、內務省でも徹夜して豫防法を相談し、內務大臣も之に關する注意の訓令を發したほどを見ても決して油斷しては爲りません。長崎と云へば日本全國に交通の繁多な處、そこに起つた病氣も何時傳染して他地方に及ぼすか知れません。虎列刺病にかゝると十人の中五六人は大抵死ぬもので、手當さへ行き届けば論は無いですが、つひ手後れになるため取つてかへしが付かなく爲ります。この病を受けて死ぬ程不幸な事は無い、この病ほど恐ろしい物は無いと知つたなら決して人事とは思はずに銘々に用心すべき事で、即ちこゝに豫防法及び手用を長々しく記しました。もしくは之によつて戒心を加へて下さらば幸の至りです。去る十二年十九年頃の虎列刺の凄まじかつたのも其頃を實見した人の知る處で、まして今年も雨も多く、時候も不順、それに貧民も多いこと、まづこの病が傳播するであらうとも極めて不吉ながら言はなければ爲らず、それにインフルエンザで大抵の身体が弱つて居るあまり、何にしろ用心に越した事は有りません。

平生の心得

度に過ぎて働らくほど身体の疲勞を起させる程の事をするのは尤も悪るいです。平生の身体に應じて過ぎぬ位に働くなら働くがよく、で無ければ身体の疲勞からこの病に感染します。一口に言へば甚しく身体を疲らせる事が悪いので即ち遠道、炎天、雨中、夜、過房、などは全くいけません。夜働くのは晝よりも倍に疲れるもの、ことには露などにも當ッて虎列刺を招くやうな物です。

身に應じた丈の勞働は却つて宜しいです。まるで何もせずに計り居ては又筋肉をもよわらせ、血液の循環もわるく、是も亦いけず、つまりも好い加減に運動せるのが欠くべからぬ事です。

朝寢と夜更かしとは兩つながら身体を疲らせるもので夫故是もいけません。ことに今日は午前四時に起き、翌日は七時に起るなど種々に勝手な、不順序の事をするのもわるい至りです。夜延仕事なども亦いけません。

衣類が汗じみ又は垢じみたのは言ふ迄も無いコレラ媒介の第一です。かならず始終よく洗つたのを用ゐなければ爲り

ません。汗臭いのや垢じみたのを香水などで匿していゝる氣に爲る人も有りますがそれも亦いけません。清淨に洗ひ出したのが第一です。よく洗つたのと言つても強ち糊のこはばつたのに限りません。只奇麗でさへ有れバ宜しいのです。

便所又は下水などの不潔な處は殊に注意しなければ爲りません。ことにこれらを白晝のきまはすなどれ言語に絶えた斷し、是非とも人の寐靜まつた頃にいなるべき事です。それに此場合にはハ豫防藥を惜むのは愚の至りです。藥屋から綠礬（一名硫酸鐵）を買ひ、之と水に濃く解かしてすべて不潔な處へ撒くのを怠らぬと大に臭氣止に爲つて傳染の一部分を防げます。之を撒いた大便など色が黑くかはつて、掃除屋によつては嫌ふものも有りますが、綠礬とて決して作物の毒になる物では無く、却つて佛國あたりでは之を肥料として用ゐる程です。右が臭氣止めの一つで、其外にも格魯兒石灰、デオデス、竈屋のおこきやあ、草木の生葉なども宜しいです。格魯兒石灰とは白い粉で、それに格魯兒の臭氣が有りますから人によつては嫌ひます。デオデス、おこきやな及び生葉に至つては正に綠礬と同じ類の物です。生葉は朝顏でも蓮でも何でも細かに刻んで便所へ入れる。すると美事に臭氣は止まります。尤も簡便なのハ此法です。已からぬ人は不潔な處へ芳香のいゝ物を置いて邪を攘つたと濟まして居ますが、他の芳香で臭氣を消すのは只々臭氣の濃さよりも芳香を濃くした丈の事。即ち臭氣と芳香とを交せたと云ふ丈で、決して臭氣を消くなしたのでハ有りません。故に芳香などで臭氣を消すのは最も姑息な手段、つまりわからぬと云ふものです。

雨露又ハ霧に逢つて身体に濕氣を受けた時には乾度乾いた手拭又は熱湯で絞つた手拭で力を込めて全身の赤くなるまで拭いて夫から奇麗な着物を着るのが肝心です。

前にも言ふとほりコレラは得て身体の疲れに乘ずるものゆゑ寐冷などするのは第一いけません。常に眞岡木綿又ハフランネルの類で充分に腹を卷き、冷えぬやうにするのが宜しいです。

按摩をつよく取らせる事も間々コレラ媒介となる事も有りますから是は注意しなければ爲りません。

飲食物

すべて食物は新らしくて消化のいゝ物が宜しく、之に反對の物はいづれもわるいです。尤も少し消化のいゝ惡いは唯一

寸見た丈では分かりません。又よく煮焼した方が宜しいですが、物によつては煮焼し過ぎて却ッて不消化になるのも有ります。何にしろ目的に取るのは其新らしくて消化のいゝといふ一点です。口から毒と諺にも言ふとほり特更コレラ杯は傳染もしますが、わが口から招くのが多いので、食物が第一番の肝心です。魚類の中ではあまり油氣の強く無い小魚の類は宜しいです。鯵、こち、雌ごち、いさき、きす、かれひ、鰻（是は餘り大きいのは皮が不消化です）、せせう、鯉、鯛、いしもち、あまだひ、いぼだひ、黒鯛の類、其あたらしいのは差し支へありません。野菜類では茄子、白瓜、葛、豆腐、干瓢、大根、菜、獨活、人參、よく煮た牛蒡（油いりは悪し）生姜、冬瓜、茗荷、根芋、馬鈴薯、新芋、金魚麩、のたくりの類、何れも差支ありません。肉類に至つては牛肉、鶏肉、羊肉、七面鳥肉の類いづれも宜しいですが、其他の肉はあまり貪り食べぬが至當でせう。牛肉も筋の多い中以下の肉はわるいです。上等又はロース肉が宜しく、夫も鶏肉其他いづれも叩いて柔にして食べれば猶宜しいです。玉子は無論新らしくさへあれば宜しく、牛乳も新鮮で質さへよければ至極です。但し玉子などはあまり煮過ぎたのはむしろ半熟のに劣ります。今迄ゑ吾々が度々も言ッた通り白味と黄味とを一途に火にのせて白味が大抵やはらかくなる處の半熟が最も宜しいです。藥味類に至ッては胡椒、辛子、酢、生姜の類些しもわるくありません。但し酢だけはあまり用ゐ過ぐると却ッていけません。

飲物に至つては酒類も些しばかり（猪口に一二杯）酒量の有る人は猪口に三四杯ぐらゐの處が適度で、わるく醉ふ程に飲めば得て病になります。深更まで酒宴を張るなどゝそれ故いけません。酒類はどの酒でも右の分量をあまり過しさへしなければむしろ胃のためにも爲ります。茶、咖啡、チヨコレートの類いづれも差支ありません。

菓物に至つては桃、李、杏、巴旦杏、葡萄、枇杷なぞよく熟したのは宜しいです。いくら熟したと言つても腐敗の方に近づいたのはいけません。

漬物には味噌漬、奈良漬が最上です。生漬の香の物なぞは甚だわるいです。

水は一旦煮立つたのに限ります。氷は差支ありません。忘れても得知れぬ氷、又は煮立てぬ水は用ゐぬがよく、氷もすべて砂漉しにして用ゐるが宜しいです。砂漉しよりも炭

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の粉で濾すのが猶宜しいです。
何にせよ以上の諸心得に反するものは何れも悪いと見て差支ありません。 また以上の諸心得に從つたにしろ、食ひ過ぎハ甚だ宜しくありません。 やゝ扣へ目にするのが宜しいです。

手當しかた

コレラになつた徴候は薄い水のやうな下痢が幾回もつゞけてあり、それからやがて吐氣が催して同じやうな液を吐く事で、其液は丁度米を煮たやうな物です。 もはや此邊で心付いて療治をせねと手後れになり勝ちです。 それから身体が冷えて來て見る間〳〵に痩せが現はれ、咽喉がかはき、手足が引き釣り、果て一寸つめると皮膚に其つめり跡が殘るばかりに爲つて、恐ろしい事は汗の孔からさへ不潔物が泄れて來ます。 甚しいのは身体が冷えるばかりで無く、呼吸さへまたつめたくなつて、大抵もう身体が冷えてなど來ると助かりません。

まづ變な下痢が有つてコレラかと氣が付いたならバ熱湯と作り、辛子湯か、濃い鹽湯かにし、腰から下と浸し、あつくても何處までも我慢し、やがて汗の出るのを見て床に入り、身體のあらぬやう兩方の股を一つに木綿の布でぐる〳〵縛り包み、更に其上腰及び尻のまはりを幾重となく木綿の布で包む、是が下りを防ぐ手段で、いくら苦しくつても下さぬやう本人も我慢する事です。 こゝで我慢さへすれバ大抵死なずに濟むことで、それを思へバ苦しくとも辛抱するが宜しいです。 勿論さしもの下り病ひもゑ堪へても堪へ切れなく爲る事も有りますが、それで催した時にも決して起きて布など除けて便器に泄らすなど優長な事をしてはいけません 何でも其儘、すこし尾籠ですが、する方がまだしもです。 ゲンこゝで一二度ぐらい催しても氣落をしてはいけません。 手當さへよければ助かるものです。 それに寢て居てハ大便と言ふものがよく出ぬもので、つまり夫故寢て居るのハ泄らさぬ防ぎに爲ります。 勿論この間身体を冷やさぬ用心が專一で、又石炭酸の度の強いのを部屋にまき、又看病人も身にわびるやうにして傳染を防がなければ爲らぬ、又病人の吐き下し物には十倍ぐらゐの石炭酸を澤山に掛け、其上へ灰を十分掛けるが宜しいです。 療治と共に他に移らせぬ用心が何より

り肝心です。

前のやうよして寐て居ると、下りの止まるもので、止まればもう大丈夫です。勿論吐き氣も來ますが、これも一心籠めてこらへるが宜しいです。其内に手早く醫師を呼ばなければ爲りません。匿すのは却つてわるいんです。又かうして寐て居る處で、日本橋區釘店八番地佐々城氏の製藥コレラ液を一時間に四度も用ゐると大抵の病人が助かります。この藥で先年以來處々の病院よ試ゑ明治十年十二年十五年の流行の時も此藥を早く用ゐたものは一人も死なかつたとの事です。

手當と藥りとの力で一旦下りが止まると素人はもう治つた氣よなるかもしれません。それから二三日の間は上向又は横に臥て身体を最も靜にして置かなければ爲らぬ、そして何でも食物を入れるのが嚴禁の中の嚴禁です。下りが止まつた其日いくら病人が物を咽んでも決してやつてはいけません藥りの外は水一滴も咽喉へ通らせては必ずいけません。是がよく〳〵心得べき箇條です。さて次の日よなつたら葛粉湯を薄味にして少しばかり一日に三度用ゐさせ、次の日よはまた同樣、その次の日あたりから稀粥をよく煑て水にして用ゐさせるので、こゝに於ては身体の滋養より何よりたゞ〳〵命のつなげる丈にするのが精一杯です。一旦下りが止まつた上、卑怯にも物を用ゐて、直ぐふたゝび下りを起し、遂も助からなくなつた例はいくらも有ることで、尤も〳〵此点よど心を附けるが專一です。くれ〴〵も最初下りの止まつた日は藥より外入れてはならぬ、後は葛粉で、ことに老人、小兒、虛弱、病後なぞの人々は次の日すら藥ばかりで有る方が大變にいゝ程です。それから何でも氣路をそるのがいゝません。手當さへ旨く行けば治るものゆゑ何でも氣をしつかりして夢にも病に負けるなぞの心を起さぬのが宜しく、又コレラよ掛れば必ず身体は骨と皮ばかりに爲るもので、一旦身体が治る方よ決つて更に之を損せぬ以上は忽ち恢復もつくものゆゑ忘れても〳〵瘦せたのと苦勞にするのでは有りません。

以上が兎に角コレラに關しての注意で、猶漏れた處は重ねて次號に出します。時節柄緊急なことゆゑ、もし御不審の事が有るなら往復葉書なり又は返信郵便を送るかなり、何をにしても御問ひ合はせなさい。直に答へます。それは食べていゝか惡いかも御問ひ次第御答へします。注意々々、愛讀れ淑女諸孃何とぞ御自愛なそばせ。

波斯の風俗

梅子

わきくの住むこの地球上の諸國の中には隨分奇体な風俗として居る國もあることは諸孃も御存じでしやう。そでに吾々も前々のいらつめで支那の奇風を載せた事がありました。　それを御覽なされた方は定めしお腹の皮とおよりなされた事でしやう。　今度茲に載せるのはペルシヤの奴婢の事で、まさか支那やどの可笑なこともなけれバ自然お腹の皮に裏打ちとして置く樣な御用意はいりません。

いづれの國の人に限らず此國へ渡つて此國の人民から尊敬を受け樣と思ふか或は自分の權勢を振り廻はさう思へバ實に容易い手段で出來ます。　其手段と言つたらたゞ奴婢を多く使ひこれに美麗な衣服を着せる事、馬を多く飼ふ事、車を多く所有する事、以上の三個條を履ひばかりです。　これさへ欠けなければ假令猫でも杓子でも此國の人民の上に立つて權勢を振はれます。

奴婢は多い程が宜いのですが先づ通常の家には左の通の奴婢を置きます。

番頭　一人　料理方　一人　料理補助　二人
寢床掃除番　二人　洗濯方　三人　別當長　一人
別當　二人　醫者　二人　家婢　一人

一体にペルシヤ人民の風俗は表上を飾る方です。　有りうちの慾とは云ひながら此國ほど甚しいのは先づ少ないと思ひます。　其例を擧げれバ貧乏人でも身には新らしい上衣と着て數多の奴婢に持囃されたいといふ念慮が全身に充滿して居て、身に不相應な風姿をするのはいくらも見る事です。

また古代のサツブ人の風習で毎年二日乃至三日の間外國人に面會することがあります。　此時の身態は實に壯麗で、附物は馬が五六頭奴婢が十二三人です。　が、其紫色の華美な服を決して其人の財産から產みだしたとは思はれません。　云ひ換へれバ其人が非常な貧乏人なのです。

で、奴婢の方は何うかと思ふと反つて分に安んじて居るらしいです。　即ち些少ばかりの給料を受けてそれで不滿の樣子もない樣です。　感心なことには一月に二「ポンド」位の給料で自分の暮しを附けるばかりか、妻子まで養育します。

しかし一つ暮し向に大きな助けとなる事があります。　それは主人の命で物を買ふ時は其直段の一割ぶけは奴婢の所有とすることを許されてあることです。　が、此規則は一割以內に限ることで、もし一割を越へれバ其奴婢は盜賊として其所分

と行ふとれことです。

ペルシヤ人の姿は美麗なぶけ身裝には余程撰り好みをする方です。 それで彼等の服裝と云つたら白木綿で仕立てたぶぶぐーした股引にカスメヤ織の灰色れ上衣を着て、頭髮は五分切で黒れ高帽か獸の皮で造つた帽子と頂いて居ます。 前の方から見れバ白いシヤツの胸の邊を包んで居る斗りで、他に何も着ては居ません。

奴婢の手癖ハ宜くありません。 其例ハ十五「ポンド」の杏と十「ペンス」で買つた處がこれを料理するた先砂糖を使ふ時に其分量丈けれ砂糖と取つて居て其中の幾らかを取ることなどです。 もしそれが主人ょ知れて主人から咎められても容易に白狀しません。 ハよく〳〵仕方がなくなつた處でまだ眞直には云はず、今夜の晩餐に味を附けるのょ二叉か三叉取つて置いたのだと答へます。 併し奪つた砂糖ハ二「ポンド」もあるのでそ。

また或時ハ象牙と銀で出來た胡桃割二對と磁器製れ皿五六枚と其他にも七五六本紛失したことも有りました。 其盗人ハ久しく知れずょ居ましたが一人れ奴婢の樣子が異しいので解雇しました。

ペルシヤにも我國の大古ょ善く似たことがあります。 それハ盗賊を探索する方法です。 我國大古の仕方ハ云はゞとも御存じのことですからそれハ略してペルシヤの方便を書いて見ましやう。 先づ最初疑はしいと目を附けた人々を並バせて置いて次に名々の口の中へ燒いた米の丸で火の樣なのを含ませるのです。 これと飲ミ込んだ者ハ無罪で、飲み込めない者ハ有罪と極めることでした。 また時によるとペルシヤ大古れ頃用ひた法と其儘行ふこともなりました。

宗教ハ回々教でそ。 其禮拜の最中人が自分の近くょ來れバ祈禱を止めます。 此際に近いた丈けでなく、其前と通行する樣なことがあれバそれが自分の常々から可愛がつて居る自分の子でも「犬の兒」とか「馬鹿野郎の兒」など、言ひます。

此國の家婢に就てハ隨分面白い話が有りまそ。 今茲ょ載せるのハ其話の一で、此國に居た某氏の實見したものを連綴したのでそ。「頃と夏の晝過ぎ、家婢部屋の方に當つて激しい叫聲が聞えました。 此時私(某氏の事)と机ょ向つて書を繙いて居ました。 が、あまり其叫聲の恐しさに書齋を出て家婢部屋へ行つて居ました。 見れバ此頃雇入れた二人の家婢が生死の爭ひ。 一人ハ手に石の塊と持つて、 私の子を抱

いて居る他の一人に向つて擲げ付け様として居ました。　石を擲げ付け様として居るはハルトンと云つて私の侍女、これを避けやうとして居るのはゴハートと云ふ小兒の乳母でした。　此有樣でぐづぐづして居ればわが子は如何になるやも知れず、これを救ふは急務のことと思へば私も其中裁と試みました。　が、無益で、反つて二人の勢ひは猛虎の樣にありました。　もう斯うなればわが子を助けるのが何より必要です。　私はゴハートの手からわが子を奪つて此場を避けました。

「それから少し時刻は移つた頃は叫聲も稍微になつて來ました。　今は何うなつたかとそつと窓を開けて見れば二人の顏色は蒼く、唇も戰慄いて居ました。　それでいづれも片息になつて居て衣服はちぎれ、顏も破れて其破れ目から眞赤な血が流れて居るのはレイシの肉の樣でした。　猶一層を凄さを添へて居る振り亂した髮の毛もどちらがどちらとも見分けが付きません。　勝を得たハルトンはゴハートの髮の毛を一摑引きむしつて手に握つて居ました。

「是ほどの爭ひをした後でありながらもう其翌日になれば實に親密な有樣で愉快らしく打語らつて居ました。　が、復讐のないにも限らねばハルトンには暇を遣つてビービーといふ女を雇入れました。　此女は才のある女であつた丈けに後れて習ひ初めた裁縫も僅かの間に上達しました。　私はもうこれで一家內は安全に治まるであらうと思ひました。

「或晩の事、朋輩の許へ行きたいとの申出に私は平常が實着の樣であつたゆえ別に不承知も云はずに望みの通り暇を遣りました。　勝手の都合もあるから翌る朝歸へれと云つたになか〳〵歸つて來ず。　不審に思つて家內を調べて見れば衣服は大概無く、其上小道具なども紛失したものが有りました。　その後此婢女は自分の身を安全にする爲めに掛りの者に賄賂を遣つて盜賊の汚名を免かれたとの事でした」。

ペルシヤ風俗の大略は大体右の通りです。　して見れば婦人の教訓を隆盛にしたなら文明の國と云はれましやうが今日の處では先づ奴隷國とでも云ふより他はありますまい。　勿論少し斗りは教育を受けた人も無いでもありません。　有つた處が貴夫人かさもなくば學者の娘位のもので實に曉の星の數程です。　それも日本の昔の樣に重に習字を學ばせたばかりです。　これと云ふのも此國で信向する回々教の法規になる「婦人は目を廣くするに及ばぬ」などが一大源因でしやう。

色インキ使用の注意　より子

至る處の官衙、學校、會社事務所などに色インキを用ゐぬは無く、それを毒と知りながら用ゐるならまだしも全く毒とも何とも知らずにはや口にも含むまで馴れ用ゐて居るのは餘處目にも冷々します。すべて色インキは何れも色の艶美なのを望んで其成分を慮はず、そのために商人は毒藥を搆はず盛つて唯其色は美くしいのをそれとこしらへ、衛生の考へに至つては皆無です。洵に歎かはしい至り。どうぞして此處に制限を置きたいものです。すべて各種の繪具の中其色の美しいのは大抵が毒藥、ことに色インキの中の黄又は紫で口に言ふすら慄然とする程の毒です。黄インキは何かと言へば諸娘も御存じの大毒藥砒素から大抵成り立つて居ます。砒素のあるものは大毒なよしは政府でも認め、砒石を用ゐた鼠ころしの藥は禁制になつて獨り黄の色インキに至つては置いて問はぬといふのは甚だ嘆はしいことです。インキは何さま食物では無いもの、之を用ゐるものは筆などにつけて口にふくむ事なども有ります。其極まる處命にも障る結果はあるとも保証しても宜い程です。紫も亦同じやうで、是はアニリンです。アニリンの毒は言ふ迄も無いこと。之をインキにしたとて毒分は同じことで、而も其價はさして高くも無く且また色のいゝ處から小兒の手遊物などにも用ゐる、夫や是や思へば恐ろしいです。こゝに何とかして取り締りを置かれたい事、これ類の繪具を玩ぶ子供又は其他を見て心配でたまりません。

對面話しの流行　むづのしや

諸嬢失禮、例のそれがし六かしやが再びこゝに諸嬢の尊前を冒して世のアラをほぢくり出すでムらう。六づかしや近頃世間を見渡すに新聞雜誌に對面話しを掲載する事流行し來つた樣子、つら〳〵惟るに其原は新參の國民新聞に始まつて如何なる風の吹き回しにや何れも著實を以て稱せらるゝ讀賣新聞女學雜誌などに移り、面々悉く車賃を經費の中から支出して無茶苦茶に未見の人の門を叩かるゝ事となりめさつる。さて早一寸商賣氣のある工夫、たゞし六づかしやも例のとほり笑止に存ずる。（ト合方きつぱりとなり）改めて言ふでは無けれども、是もあながち國民新聞一家の發明にあらず、西洋の新聞雜誌の中いくらもムる。其何を眞似られたか六ゝしや眞逆に天眼通で無ければ知らず、能勢

君(能勢君は然れども同義なり)要せるに此對面話しは西洋各國の上等新聞には少い事でムる。　對面はむかしの専賣とも言ふべきは英のペルメルガゼットなぞ其随一、米國に至ッてし澤山にムるが、何れも社會の中以上からしてあまり信用の無い新聞雜誌でムる。　何故に信用が無いのと申せば對面話しと兎角濫用に流れるからで、是れ實に致し方無い事なり。僅に一度顔と見たばかりで、其身淨玻璃の鏡を持つなら知らぬ事、いかにして相手の眞髄を知るを得べき。　忍びかに見得べきは其皮相に止るのみでムらう。　やれペンキ塗りの家に居るとの、やれ机の上に本が有つたとか、やれ着物を着て居たとか、やれクシャミをして居たとか、記すべき處は實際此邊に止めを指すべし。　成る程其人の意見も聞かぬめ。　されど多くて一時間少くて十五分ぐらゐの談話なり。何がどうして何に爲るべきぞ。　見たまへや、泰西にても此對面話しと云ふ物は何れも皮相に傾かざるは無し。　之に數年の經驗を有せる彼すら然り、まして況んや申さんや經驗も無き日本に於て上皮一重を記すが關なるも無理ではムるまい。　されば勢ひ其醜を隱すため先方の人の一二言を飛んだ筆屋の稼ぎに數十行に延ばし、自然に馬鹿な御負を添ふるに至る、是が即ち信用の無くなる原因と申す。　錚々たるタイムス新聞又はロンドンニウスなどには此の如き不信用は藥にしたくも無く何れも公開確實の記事を以て充滿せる、六かしやはむしろ之に服せるなり。　殊更米國の新聞如きは無上に探訪の周到を競ふため、勢ひ社員を諸方に馳せてくだら無く人を訪ひ、尾に尾を添へて揭ぐるため新聞の信用殆んど地に落ちてムる。　まだしも日本には其弊が無かつた、それが今日やうやく催す空合、ちと苦々しい至りに存ずる。　其人の意見とか何とか言ふと別に家や着物を書かずとも濟む。六かしやは外國の例に照らしてなほ日本にも其わるい處が段々殖えるかを悲しむまして某新聞此春の女學生の記事の如きは大に曖昧なる處もありし程なるをや。　諸孃御意見如何。　六かしやは風流あるいらつめに此弊のいまだ入らぬを喜び、併せて爾後とも流行に陷らざるを願ふ。　頓首再拜。

聞き上手

細い管の類で繪をすかして見ると大きに眞物らしく見えると言はれて田舍の權助不思議さうな顔をして居たが、やがて管を取ッて庭の檜を眺め、「争はれねエ、ほん物の檜にいきうつしだア」。

大哲學者 ろッく

大疎野

人の話しを妨げるほど疎野な事は無い。

天地皆詩

むかしは砂糖も是非砂糖蔗から取るものと思つたに、今は何からでも取れる。昨日迄も題に縛られて歌を詠じたとて世が進んだ上決してそれが能では無いこと。天地人事なりとはあらゆる物皆詩人の口に上るべきもの。上らせられぬものは穀つぶしです。

成就

物を成就さするのは正當の道を取るが第一、勉強が第二です。

愛の無言

獨逸の文學大家ジャンパウルが愛の無言を說いて、

「愛に無言の二期が有る——氣味わるくてのが一つ、滿足してのが一つ。　前のは愛の初春、即ち目が口よりも物を言ひ、又豊富な葉蔭相手のさめぬ末を待つ杯の時に起り、後のは各相信じて二人並んで思ふ儘の處に達した時に出る。」

無學

わが無學を知らぬ者が第一の無學者、わが無學を知つて之を隠す者は猶馬鹿な無學者です。

通信紹介規則

(一)通信物品紹介文掲載を望む者は原稿と共に掲載料及保証料を送る事(二)掲載文に對し約定を望む人ハ其代金及保証料を送る事但し此保証料は相手の掲載文の保証料と同額の事(三)掲載料ハ五号活字廿七字詰一行金五錢宛保証料ハ一行五錢宛(四)雑誌發兌の十日前に受取つた申込ハ其号、十日後のは次号に載せる事(五)紹介文申込後其取消請求が有ても領收金員は返さぬ事(六)紹介文掲載後約定望人が既に出來、そして掲載申込人が取消請求した時にハ双方の保証料を悉く最近のいらつめに換へて約定望人に返す事(七)約定望人が一時に二名以上有る時は約定申込書の郵便の消印の時刻で前後を定める事(八)既に一名の約定人が出來た時は第二の約定人には別段返事を出さず其代り第二約定人の保証料を最近のいらつめに換へ、其他の代金は三十錢以下一割三十錢以上は爲替で返濟する事、但し返送料は其内から差引く事(九)約定望人が有れば本社は直に郵便で掲載申込人に其趣を知らせるに付き通知得次第掲載申込人は其品物を運賃自辨で本社へ送るべき事、本社では品物と引換に、代金を三十錢以下一割増の切手三十錢以上爲替掲載申込人に支拂ひ、直に其品物を通運便先拂で約定望人に送る事、是等の場合に於て保險を望む人は豫め其由を言込む事、但し保險料も自辨の事(十)約定出來の上は約定双方の人に各保証料を最近のいらつめに換へて返す事(十一)此約定は最も双方の誠實を尙ぶ事ゆゑ其間に双方共虛僞を挟んでは爲らぬ事、品物其他共本社では紹介するばかり其品に就ての責には一切任ぜぬ事、物品差立の荷造は成丈丁寧にして封印を打て置くべき事、本社では決して之を開封せぬ事(十二)其實物に接せぬ獨り誠實から成立つ約定ゆゑ申込人も其品物の体裁を眞實に記すべき事(十三)掲載の文には本人姓名を秘す事、但し本人から姓名宿所も掲載の命が有れば例外(十四)以上規則に因つて取扱ふ物品は普通の小さな物に限る(十五)以上諸條の犯則は悉皆沒書の事〇(一)奉公口の紹介周旋に對し紹介約定申込が有れは本社から其趣を本人に通知する事但し是は物品と違ひ其後の事に本社で干渉せす都て双方の勝手に任せる事〇番号の欠けて居るのは最早約定濟になつたのを〇紹介掲載は三回が一區切

●賣拂

(一四)明治廿年製造大內香十二箱(箱も並形)、一箱につき特別減價金六拾錢、十一箱一時に購求すれば至金六圓五拾錢……西京

(一六)ダイアモンド二十六顆入り胸飾り、金剛石直徑八厘のもの六個、直徑五厘のもの二十個、石質上等無色、光力無双、臺は十四金、賣價百貳拾圓……東京 青山

(二一)中村敬宇題辭、横山潤譯、原書は英國倫敦カッセル氏著近世禮式書、交際家必要な書物、表紙は赤クロース製、紙數百二十頁、無記名、賣價拾五錢……伊豆

●買入

(二二)今日の文學家(重に小說家)の寫眞、幼時のでもよし、至急……越後

●雇人（一九）年齢十八歳の女子、良家の子、品行よし、温和な性質、和文英語の教師となる所存、給料一月五圓……東京神田

通信問答

メイヅン——英國の貨幣名稱にファージングと言ふがある其原語はファスイングス（即ち四つの物）だとの事です

太田けい子——㈠油を注ぐと海水が靜になるとは嘘では無く實の事で、現に昔から日本でも所により海女が此法を行つて居た趣です㈡ハンケチに香水をつけるのは至當な事です㈢炎天になつて香水の氣が早く拔けるのは全く香水にアルコール分が多く、蒸發が烈しい故で、廉價な香水は皆これです。香水の中にアルコール分の有無を檢するには簡易な法が有ります。まづ瓶をふつて見ると香水に泡が立ちます。それでアルコール分の多いのは其泡が立つや否や直に消え、アルコール分の少いのは之と反對です。

下女——サポリオは如何にも物を磨くに適當の品です。

たつ子——ハンケチについたインキを落すには先づ硼砂を濃く溶かした水に其シミの處を浸し、ふり出し、取上げて清水で又ふり出し、更に檸酸を解かした水の中へ入れてふり出すと全く落ちます。布を損じません。

中村とし子——毛を生す法の眞[illegible]は藥の方が宜しく、枳殼を成るべく丸の儘がよく、もし刻んだ物ならばやゝ多量に入れるべき事です。

紅蓮——類で無くて顔の色の紅過ぎるのは平生の衛生から來ます。氣をさへ付ければ藥を用ゐるに及ばず治ります。冬寒い處から直に火にあたり、又は薄着で居、足を冷やし、それから究屈な肌をしめて置くのが大原因です。是に心付ければ宜しいです。

フエリス——キスといふ英語は如何にもいゝ語ですが、さて譯すに接吻と言つた位で言ひ盡くせません。日本で接吻とのみ言へばやゝ卑しい意味が籠ります。これとホームは殘念ながら原語のまゝ用ゐるのがまだしもです。

多田光子——蚤を去るには薄荷精をこしを蒲團なり着物なりに振りまくといゝ趣です。

鈴の家——お若い時分から寢所へ入つてから二三時間も經たなければ眠られぬとの事ですがこれは胃弱から來るのもあればまた其他にも種々の原因があることで劇藥を用ひなければ治りませんから醫者にかゝる方が安全です。㈡此頃のいらつめで御報知申しました流行の蝙蝠傘は上等品なら二圓でお高くも有りません。卷いた時に出來る折目がすり切れるのは何うも仕方がありません。㈢ラムチは胃弱のお方が常々お用ひになつても害にはなりません。㈣豆腐は害のないものです。㈤時計とつゝんである鹿の皮の洗濯法は知りません。㈥汗の出るのを止める法は諸孃から能くお尋ねになることですがこれは前号のいらつめにも出した通り別にこれと云つて良法も有りません。汗どめとか汗おさへ等といふ賣藥もありますが何れも有害のものです。

狂太郎——宮中顧問官御歌所長從四位高崎正風大人の筆蹟を習ひたい御所存で成美社へ周旋を御賴をなさるとの事ですが弊社では其手續を存じません。㈡美妙齋主人が國民の友の附録に出された醉沈香の題にて其韻文の第六節の終にある「香に醉ふてかはも紅ゐ……」の句から附けたものです。㈢鶏の卵は分娩してから幾日經つても腐らない間は搆ひませんがたゞ日を經る丈け滋養が減ずるまでのことです。㈣南西風にも昔はいろ〳〵呼び方もあつたのですが今日では別に呼び方は知りません。㈤獸の皮の毛の拔けるのを防せく法は知りません。

藤田靜子女史——當時東京で有名な眼科醫で學識と經驗を備へて居る人は小石川の須田氏です。

井蛙女史——文金高髷を恰好よく結ふにはカモジの根を高くして元結じめへ一寸五分位の眞を入れるのです。㈡疊に附いたインキは檸酸をつけて洗へば直おちます。㈢黒襦子に油垢の附いたのは射る樣な日に乾して能く乾せた處を毛の柔かいハケで掃べるとそれで奇麗に落ちます。㈣渡邊辰五郎氏著裁縫算術書はまだ見ませんが氏の著はしたもの故多分宜いでしやう。

高野さだ——理髮所などで使つて居るあの油の附いたブラシを洗濯するには洗濯曹達を薄く溶したる湯で振り出して更に水を灌ぎかけて後日光に曝らすのです。㈢石や其他の鑛物は成長しないと云ふのが一般の說です。

秋月女史——人造氷でも天然氷でも同し溫度を加へれば同時間で溶解します。㈡汗を止める法は別に有ません。前の鈴の家さんに答へた通りです。㈢着物に脂の附いたのは石腦油で拔くのが一番です。まづ他に適當の藥のある事は知りません。

懸賞小説募集弘告

○題意

筋立――右側に中等の住居、紳士の宅とも見える――左りよ細路、左右草あを生ひ茂り、左よ當り木立澤山―時刻と夕方――月無し――時候と秋――細路の中程か一冊の寫眞ブックが落ちてゐる体――右側の住居の二階の窓から十五六の少女が愁顔とも笑顔とも付かぬ顔其寫眞ブックを遙に見る体――其外よ人一人も無し――犬ぐらゐれ出してもよし――其餘この題の注文に背かぬ以上いどう形容を加へてもよし――充分に讀者を感動そるのが專一の事

○雑事

投寄の草稿中から一種を拔いて褒賞を呈そる事○草稿れいらつめの大きさ及び字數よして大抵八ページ以上十二ページ以下の事○第一等賞品は**白縮緬**一反○賞品を得た草稿は**いらつめ**に掲げる事○草稿〆切は**本年八月**十五日限りの事○草稿は普通の懸賞文藝と違ひ、一字一句でも直さぬ事○原稿は楷書で一行廿七字詰よし各行の間よ些しづゝ餘地を置く事○此懸賞は男女に限らず應せられる事○原稿遞送の際郵税に不足等あれば決して受理せぬ事○原稿遞送の封皮よは朱で懸賞小説と記す事○應募者は詐らず自分の年齢を記す事原稿は成るべく紛失等れ患と避けて送る事○原稿領收の上は別に領收証を出さず、いらつめで其趣を記す事但し應募者の姓名の頭字と所在地と月日とを出す事○以上の成規に背くものと沒書

○懸賞文藝新題

○第廿六回題（文章に限る） 右 谷れ螢 八月十日〆切

○第廿七回題（何でもよし） 右 源氏を讀む 八月廿日〆切

○第廿八回題（何でもよし） 右 意中れ人の品定め 九月十日〆切

○第廿九回題（何でもよし） 右 子の生れた時の親心 九月廿日〆切

○第三十回題（唱歌文章に限る） 右 殘夢 十月十日〆切

○第卅一回題（唱歌文章よ限る） 右 猫 十月廿日〆切

○第卅二回題（何でもよし） 右 新婚旅行の人よ贈る 十一月十日〆切

○第卅三回題（唱歌文章よ限る） 右 小春日和 十一月廿日〆切

○第卅四回題（何でもよし） 右 蔦蔭の獼猴 十二月十日〆切

○第卅五回題（何でもよし） 右 春衣裁縫 十二月廿日〆切

右第廿八回題と男女に限らそ或は夫、或は妻、いづれにしろわが望む理想の佳人君子の品定めと言ふのでそ、

この頃れ應募者にい應募規則よ背く者が有りますが是から其作の巧拙に關せす犯則と容赦なく審査外にします。

右文藝應募者心得

第一 題を種にして成るべく趣向と立てるれを尙ぶ事○第二 唱歌淨瑠璃及ひ文章は各一千五百字以内の事○第三 一人で二種類の作を投せられた人は一種類各別々の紙よ書く事○第四 原稿には宿所姓名明記の事○第五原稿は半紙に限る事○第六 第二第三第四及ひ第五に背くものい沒書。

賞品と菊水摸樣の金又は銀杯

右賞品は一等賞の者、二等三度の者、三等六度の者、四等十八度の者及び是と同じ資格よ相當そる者に限り進呈します。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

愛讀者各位

近來當成美社員の名を冐稱し未見の令女ゝ書狀を寄せ又は金錢を讀者より騙取する狡兒有之由然る處弊社ゝ於ては發行人の外一箇人の資格を以て社員として世間ゝ對そること嚴禁ゝして万一右樣の狡兒有之候はゞ其姓名發行人宛ゝて御通知被ト度郵稅は御返却申上ぐべく候金錢の如きは必らず成美社の捺印を見て御渡被下度猶發行人より世間ゝ對そる書狀等ゝは悉く捺印有之候間是又御目標被成下度又通知ゝ因りて狡兒の名義明確ゝ相成候上は用捨無く紙上に其名を掲載可致候

成美社

机上之友

第二号已ニ發ス◎一部定價二錢十部前金拾八錢外ニ郵稅申受ク◎益募社員有志ノ士至急入社チ乞フ

此雜誌ハ詩文歌俳及ビ政治上ノ事ハ勿論人事社會ニ有リトアラユル必要ナル事柄ハ尽ク掲載ス見本望ミノ士ハ往復葉書ニテ申込ミアレハ直ニ社則チ添ヘテ呈上ス

自今左ノ謝料チ以テ詩文代作並ニ添削ノ囑ニ從事ス添削料絶一錢律二錢雖長編絶ノ割合◎文一編四錢但一編ハ二百字トス◎代作料文一編一圓詩一首拾錢別有社則◎下野梁田郡高松風帆吟社

法の雨三十編

◎論說
○政事家と宗教家……夢笑道人
○尾張人と其佛教‥學習院教授‥加賀秀一
○足もとの御用心……寺田福壽
◎演說
○妄想分別の始起如何……帝國大學講師……吉谷覺壽
◎評論
○近世哲學デカルトの評論‥新田儉讓
◎雜鐵
○キユー、ジヤツヂ氏の書翰○三不具者の狼狽○雲影居士の書翰○書籍と賣て貧民を救ふ
◎寄書
○吾人の急務……天野顯意
◎寳譚
○うき世（其一）……夢笑道人
◎文苑
●輓天白文智法兄幷詩序（加藤行海）●悼亡（住田祐信）●暮春外一首（服部華山）●寄母在病院外一首（田部井竹香）●釋敎（小林大空）●古寺鐘（中西規敬）
◎雜報
●大谷派本山の達●本縣撰出貴族院議員●各宗管長會議●兵役免除●各宗管長へ上書の項目●貧民の增殖●南豆米の炊法●魔島の別院●小栗栖香頂師●特別敎會●軍人說敎●南條博士●佛敎婦人會發會式●ゆゝてりあんれ演說●牧師佛敎に歸依す
◎批評……新刊書籍の批評二種
◎本會記事◎本會報告……◎廣告數件……

發行所　愛知縣名古屋市下茶屋町番外　法雨協會

逓信省認可

東洋學會雜誌

六月二十八日發行

第四編第六號目錄

史學門
阿衡始末……萩野由之
耶蘇宗門改メノ事跡（承前）……大久保初男
印度ノ法律……宮本平九郎

文學門
支那文字私考……岡田正之
總集會祝詞……小中村清矩
思往事……飯田武鄉
文章訓蒙序……秋葉猗堂
陽江（琵琶曲）……阪正臣
其他詩文歌數首

演説
道德衰替ノ源因……川田剛

雜錄
第四總集會●方言●展覽會の起原

會告

發兌定日	定價				御注意
毎月一回廿八日	一冊	六冊	十二冊	廿四冊	御注文ノ節ハ〇府、縣、郡、區、町、村、番地、姓名、等詳細御申込ヲ要ス〇御轉居ノ節ハ新舊所御報知ヲ乞フ
	金八錢	前金四十五錢	前金八十六錢	前金一圓六十三錢	
全國郵税	金壹錢	金六錢	金十二錢	金廿四錢	

〇本誌ハ前金ニアラザレハ遞送セズ〇見本ハ郵券九錢ニテ呈スヘシ〇代價ハ郵便爲換ナレハ芝口郵便局ヘ御振リ込ノヿ〇前金相切レナハ直ニ遞送ヲ止ムヘシ

發行所 東京京橋區南傳馬町一丁目十二番地 東洋學會

此廣告文切拔御持參の御方に限り一割引

第三回内國勸業博覽會審査官●農林學校教授 農學士 古在由直先生肥料無害證明

一壜十五日分代拾二錢
ダース割引申候

臭氣止おコきキな

醫科大學教授 醫學博士 緒方正規先生下水實驗證明

此藥は使用に極手輕く大小便所芥溜下水に撒布する時は全く無臭となり他の臭氣なく夫が證據ハ博覽會場内各劇場等便處に實地試驗廣告仕候

本舖 神田南神保町四番地 おきなや

臭氣止一切受負も可仕候又一壜にても配達申上候御用の御方ハ御最寄の藥店にて御購求被下度候